

■ 議長記者会見概要

日 時：平成23年6月21日（火）14:30～15:05

場 所：県政記者室（県庁内）

出席者：國中憲治議長、浅川清仁副議長、上田悟広報委員会座長



上田悟広報委員会座長 國中憲治議長 浅川清仁副議長

〈案件〉

（1）議会改革推進会議及び政策検討会議について（資料1、資料2）

議長： 「議会改革推進会議」及び「政策検討会議」は、平成22年12月に制定した奈良県議会基本条例に基づき、議会改革の推進及び議会の機能強化を図るため、各派連絡会の了承を得て設置しました。

「議会改革推進会議」については、議会改革の推進に関する基本的事項について協議することとし、昨年度から「常任委員会」「特別委員会」の見直しなどを行っていますが、今般の議員改選を受け、改めて各会派から推薦をいただいた議員をもって資料のとおり構成し、昨日の各派連絡会において正副座長を指名させていただいたところです。今後は、6月定例会終了後から本格的に協議を進める予定です。

「政策検討会議」については、「議会改革推進会議」と同様、各会派から推薦をいただいた議員をもって資料のとおり構成し、正副座長を昨日の各派連絡会において指名させていただいたところです。「政策検討会議」では、県政の課題について幅広い議論を行うこととしており、6月定例会終了後からテーマを含め本格的に協議を進める予定です。

（2）第5回紀伊半島三県議会交流会議の開催について（資料3）

議長： 紀伊半島というのは日本でも一番大きな半島です。そこには、たくさんの資源があるのに活用されず、「過疎」の二文字で語られてきました。三重県、和歌山県、奈良県では、紀伊半島の資源を活かしていくため、紀伊半島三県議員交流会議を開催してきました。

今まで議員として過疎対策に取り組む中で、「限界集落」という言葉が出てきていたものが、あと10年もすれば「限界自治体」が出てくるのではないかと懸念しているところです。幸いにも「南部を元気にする」という構想を知事が打ち立てられたが、それを実現化していくことが県政の大きな課題ではないかと思っています。それにつけて紀伊半島を活性化していくために、観光資源を活かしていくこと、地域医療の充実に向けて取り組んでいくことが、県民の皆さん、紀伊半島に住む皆さんの安心につながるものと考えています。これまでの紀伊半島三県議員交流会議でも、「過疎対策」、「林業振興」、「道路整備」等について活発な意見交換を行ってきたところです。これからも、これらのことについては、三県

が一体となって取り組んでいかなければならないと思います。今回は、和歌山県の有田川町で開催される予定です。

〈質疑応答〉

1. 特別委員会について

記者： 政策検討会議は具体的に何をしていくのか。当面のテーマは。

広報座長： これまで議会の議論というのは議員が理事者側に質問をして答えてもらうことに終始していたので、議会改革の一環として、議員間でかつ達な政策論議ができるような場が必要だということから、政策検討会議を立ち上げて、議員間討議をしっかりとっていくこととなった。議長の説明にもあったように、6月定例会が終わってから、第1回目のスタートを切る予定です。

副議長： 議員提案条例も含め、これからテーマを考えていきます。

記者： 議員提案の議案は政策検討会議を必ず通すということか。

広報座長： 政策検討会議は議長の諮問により設置された会議ですので、そこで検討した内容を議長にあげていくこととなります。

記者： テーマは議長の方からでるということか。

広報座長： 積極的に政策検討会議からも提案したい。

記者： 想定されるテーマは。

広報座長： 定例会の最終日ぐらいに第1回会議を開く予定で、そこからスタートします。

記者： 政策検討会議において超党派で議論して、つくりあげた案を本会議にあげることになれば、反対討論もなしに、割とすんなり通るような内容ということですね。

広報座長： まずは協議した内容を各派連絡会にあげるのが筋と思います。

記者： 議会改革推進会議のテーマは何になりますか。

広報座長： まずは協議事項を出し合うことからスタートします。

副議長： 予算・決算審査特別委員会のあり方については相当議論されるのではないのでしょうか。

記者： 予算・決算審査特別委員会の問題点はどのようなところですか。

副議長： 今が問題ということではなくて、他府県においては、議員定数の約半分が予算委員会にはいるケースもありますし、予算委員会を常任委員会として設置している議会もあります。普段の常任委員会も重要ではありますが、予算審議はたいへん重要な委員会になりますので、あり方を根本的に考えていこうという動きもあります。

広報座長： 特別委員会でいいのか、常任委員会にするのかということも含めて、予算委員会のあり方を考えていくこととなります。

記者： 震災の関係もありますし、最近では国の経済対策に対応した急な補正もあったことから、弾力的に予算審議ができるような検討をされるということか。

広報座長： そのとおりです。

記者： そうなると常任委員会とのすみ分けが問題になりますね。

広報座長： 相当の議論が必要となります。

記者： 議会の通年化ということも議論になるのでは。

副議長： 議会改革推進会議で議論となるでしょう。定例4回でよいのか。通年にするのか、2回にするのか、そういう意見もあるでしょうね。

記者： 政策検討会議、議会改革推進会議の日程は決まっていないのか。

広報座長： 6月定例会最終日あたりからスタートしたいと思っています。
常任委員会の所管替えをし、特別委員会を新たに設置し、スタートを切ったばかりですが、今後、議会改革推進会議で議論していく中で、委員会の運営も含めて、委員会の見直しが必要だと思えます。

記者： 常任委員会でも議員間討議ができるとすると、政策検討会議とのすみ分けはどのあたりにあるのか。

副議長： 常任委員会は理事者が出席しており、その中で議員間討議は難しい。理事者の出席を求めているわけですから、理事者と議論できるようにしたい。

記者： 議会改革推進会議と政策検討会議は今後どのくらいの間隔で開催していくのか。

広報座長： 定期的にしなければならないと考えています。

副議長： 各会議の判断になってくると思えます。

2. 第5回紀伊半島三県議会交流会議の開催について

記者： 紀伊半島3県議会交流会議の出席者は。

事務局： 正副議長、五條市選出議員、吉野郡選出議員、過疎・南部地域振興対策特別委員会委員から、現在のところ7名程が出席予定です。

3. 議員定数、議員報酬について

記者： 削減の見通しについて議長から一言いただきたい。

議長： 議会改革推進会議で議論をしていきます。県民の皆様の声を県政へ届ける役割をしているので、議員活動を活発にさせていただくことがまず必要だと思っています。報酬に関しては、議員や県民の皆様の意向に添うよう考えていかなければならないと思います。議員定数、議員報酬のことも、議会改革推進会議の中で当然議論されるのではないかと思います。

広報座長： 議会改革推進会議の座長をさせていただくが、慌てずに、じっくりと論議を深めて進めていきたいと考えています。